

福岡県周辺の基地の動き 第3号

背振山の基地機能の変化

背振山には航空自衛隊西部航空方面隊（司令部春日市）の第43警戒管制群のレーダー（ミサイル防衛用に改修済み）や各種アンテナがあり、米軍の佐世保、岩国、対馬経由韓国向けのパラボラアンテナは撤去され使用されていない。

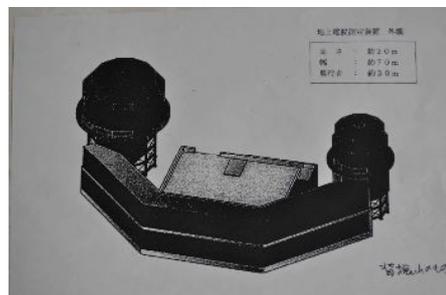
背振山頂に2005年、地上電波測定施設が新設され運用開始された。この施設は冷戦時代、北海道に3ヶ所しかなかった施設（稚内など）で、背振山だけでなく2009年3月に沖縄県宮古島にも背振山より大きい施設が新設・運用開始された。長崎県五島列島にも設置の動きがあり、自衛隊の電波傍受が西方にシフトし、中国軍等の動きを秘かに探っているスパイ施設が九州各県で増加している。

昨年12月の「新防衛計画の大綱」は、「平素から我が国及び周辺において常時継続的な情報収集・警戒監視・偵察活動（以下「常時監視」という）による情報優越を確保する」とし、「動的防衛力」に必要な「情報機能の強化」を打ち出している。

(背振山の地上電波測定施設とレーダ)



(背振山の施設概要図)



この施設で、短波（HF）,超短波（VHF）,極超短波（UHF）などの電波を収集・分析している

(北海道稚内の地上電波測定施設)



(沖縄宮古島の地上電波測定施設)

